

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
生徒の視点に立った「わかる授業」と家庭学習の充実	1 学習指導の充実 (1)生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学習する習慣の定着を図る。 (2)授業を重視し、基礎・基本の確実な定着と応用力の育成及び個性を生かす教育の充実を図る。	<p>[教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 科目による展開授業を各学年15講座実施し、少人数指導による効果を生徒・保護者ともに72%以上の肯定意見が得られるようにする。 (R2 生徒78%、保護者71.4%) 生徒の授業満足度93%以上(R2 全体平均92.9%) <p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の日における学習時間 学年+1時間 (R2 平均学習時間 1年生:2.24時間・2年生:2.44時間) <p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本となる力の定着の目安として、丁寧な教科指導の結果としての欠点科目数の減少に努める。 自主学習時間の確保に結びつくよう、年間3回は取り組み内容を確認・評価する。 学年会を各学期に2回以上実施する。 学年集いを各学期に2回以上実施する。 	<p>[教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 単位制の利点を生かし、生徒の希望する選択科目を開講することができた。 2,3年で15講座以上展開授業を実施した。 (R3 1年生:13 2年生:25 3年生:31) 肯定意見割合(生徒75.6%、保護者75.2%) 生徒の授業満足度は、全体平均で93.1%であった。 <p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の日における学習時間(2学期末現在) 1年生:2.06時間 2年生:2.14時間 1年生は目標達成できたが昨年度より微減、2年生は目標達成に至らず昨年度同時期の調査より平均学習時間は0.3時間減少したが、1年次よりは学習時間を確保できている。 <p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧な教科指導を行い、2学期末の欠点科目数が昨年度より減少した。 週末や長期休業には課題を設定して計画的に取り組むよう指導し、その状況を年間3回以上確認し、評価した。 全学年とも学年会を各学期に2回以上実施した。 学年集いは、従来の体育館だけでなくオンラインも利用して、各学期2回以上実施した。 	<p>[教務課] (評価B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科と連携し、可能な限り生徒の希望する選択科目を開講することに努めたが、教職員数の都合上授業展開数に限りが生じ、1年生での数が減少した。だが、少人数指導の効果を生徒(75.6% 昨年78%)、保護者(75.2% 昨年71.4%)ともに一定程度実感していると思われる。数値目標についても、達成できた。また、教科会を年7回開催した。城北生に身につけたい力に基づく評価方法や、手立てについて共通理解を図ることができ、有意義であった。 授業交流週間の実施は、アンケートより教職員の授業における新しい気づきを生む効果があることが見られた。 <p>[進学課] (評価B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画はほぼ実行できたが、一部の項目で評価指標を超えることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領や授業改善、学習評価について協議する教科会が7回もある。 授業、家庭、塾と本人が納得したものを与えないとどっちつかずになる。 授業の形態をどうするか。 6つの力(マイスター)をつける意味を考えてほしい。 丁寧な個別指導に城北高校の強み、誇りが感じられる。 学習時間が2年生で減少するのは当たり前だが、微増している点はすばらしい。 	<p>[教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導を実践するにあたり、多くの先生に時間的負担をかけている事実がある。単一クラスで実施している授業も含め、教育の費用対効果が高まるように編制を考えなければならない。 教科会での協議内容が実践されるシステムを熟慮し、学校経営に取り入れる必要がある。 <p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間の平均が1・2年生とも2時間程度で頭打ちの状態になっている。学習や進路への意識を高め、スマホ利用のしかたを見直させるなど、日常生活で学習時間を確保するような指導を継続する。 高大接続改革における進学関係業務が増加しているうえ、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種変更に伴い、業務量はさらに増大した。来年度からは新学習指導要領対応の業務も増加すると思われる。今後も進学関係業務の改善や、実施時期の調整等を図り、効果的かつ持続可能な進学指導を進めていく。 今年度設定した評価指標は次年度も下げることなく、目標達成に向けた努力や改善を継続する。 <p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き「為せば成るノート」の記入や個人面談を通して、学習習慣の定着に向けて生徒の意欲を喚起する。 学年運営や生徒理解について、学年教員全員の共通理解の深化に努める。
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
			<p>[教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業交流週間を年間2回実施、授業参観のべ人数90人以上(R2 授業参観のべ人数82人) 授業改善や学習評価等について協議する教科会を年間6回実施 	<p>[教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業交流週間を6月と11月の計2回実施することができた。 授業参観のべ人数(アンケート回答数)は71名であった。 教科会を年7回実施し、各教科において、授業改善や新学習指導要領などについて協議し、共通理解を高めることができた。また、学校ランドデザイン、城北生に授業で身につけたい力などについても協議をすることができた。 	<p>[学年] (評価B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立や基礎学力の充実に向けて、学年団で協力して取り組むことができた。 	
			<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日学習時間として目標「学年+1」時間の定着に努める。 高大接続改革の情報共有と、組織的な進路指導体制を維持するため進路行事の精査や改善を行う。 	<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は年9回の学習の日と、翌日の学習時間調査を実施し、学年やホームルーム間の学習状況の現状を把握し、学習指導に繋げた。 タブレット等を用いた学習時間調査の試行に取り組むことはできたが、Classiを用いた毎日の生活・学習調査を行うまでには至らなかった。Classiの校内グループ機能を活用した進路・共通テスト集会スライドの配信は、集会内容の周知に大きく寄与した。 教職員共有フォルダやグループメール等を用いて有用な情報を共有し、進路指導に活用することができた。 一斉テストにおいて思考型問題を出題することとし、新傾向の入試問題に対応した。 		
		<p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題(日々のプリント、週間プリントなど)の有効利用をさせる。 予習→授業→復習サイクルの習慣化による、学習内容の定着をさせる。 	<p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題の確認(評価を段階的にする) 「為せば成るノート」で学習時間を確認し、生徒一人一人に学習習慣の定着を徹底させる。 「為せば成るノート」を活用した面談を年間5回以上実施する。 	<p>[学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題確認の際に評価を工夫し、提出率を向上させた。 「為せば成るノート」を提出させることで、学習状況や生活習慣の把握に努めた。 「為せば成るノート」を活用した面談を年間5回以上実施できた。 		

重点課題	重点目標 (全校レベル)	自己評価		学校運営協議会評価 学校運営協議会委員の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画 評価指標	評価 評価指標の達成度 総合評価・所見			
生徒の視点に立 った「わかる授業」と 家庭学習の充実	1 学習指導の充実 (1)生徒の学習意欲を喚起し、主体的 に学習する習慣の定着を図る。 (2)授業を重視し、基礎・基本の確実な 定着と応用力の育成及び個性を生かす 教育の充実を図る。	[教科] 1) 国語 ①月1回の課題提出率90%(R2 80%) ②小テストの定着率90%(R2 75%)	[教科] 1) 国語 ①課題提出率80% ②小テスト定着率75%	1) 国語(評価B) 課題未提出が続いてしまう一 定数の生徒が出てしまい、提 出率は横ばいだった。小テスト 定着率も同様の傾向が出た。 思考力を問う発問や出題は十 分取り入れることができた。観 点別学習状況評価に移行する にあたっては、より一層の検討 と実践が必要である。 2) 地歴・公民(評価B) 授業アンケートにおいて地歴 科目97%・公民科目87%の生徒 満足度であり、生徒のニーズ に応えられていると実感してい る。今後も受験に対応できる力 を高める工夫をしていく。 3) 数学(評価B) 目標値に到達していない項 目もあったが、概ね目標を達 成することができた。次年度に 向けて小テストの実施方法を 検討する必要がある。 4) 理科(評価B) コロナウイルスの影響により、 生徒実験を行うことは難しかっ たが、教職員による演示実験 や電子黒板に実験動画を映す などで代替した。 5) 英語(評価B) 課題の提出率も小テストの得 点も目標にわずかに届かなか った。小テストに活かすこと のできる課題の精選や、小テ ストの復習課題などの充実を 図り基本事項の定着をはかる 必要がある。	・キュレラス(Qureous)の導入に ついて、英語の学習指導要領 は4技能から5技能に変わり、ど のように対応するか大学でも入 試を変えていく必要がある。現在 は、小学校でもスピーキング、リ スニングの力がついてきており、 旧態依然ではどうにもならない。 語彙については高校で3000語だ が、知識としては蓄積されていな い。スピーキングやリスニングの 力はついてきているが、文法や 語彙、ライティングの力、インプ ットする力はないのが現状だ。 数学もこれまでのトレーニングで は難しい。高1の学び直しにつか うなど、計画を立てていく必要が ある。 ・観点別評価は細かすぎて也正 しい評価ができない。慣れるまで 大変だ。 ・目標とする語彙力のレベルは どれぐらいか。	1) 国語 3観点での評価初年度となる次 年度には評価指標自体を再考 し、学力伸長と相関性が高く、か つカリキュラム・マネジメントと関 連づけられるものにするこ とで、日々の指導から常に意識して いくものになりたい。思考力を伸ばす 実践をより一層進めていきたい。
		2) 地歴・公民 ①小テストの正答率80%(R2 80%) ②小テストの定着率95%(R2 95%) ③予習復習プリント(提出課題)提出率90%	2) 地歴・公民 ①小テスト正答率80%(R2 80%) ②小テストの定着率80%(R2 95%) ③予習復習プリント提出率95%			
		3) 数学 ①週末課題プリント提出率90%(R2 80.1%) ②小テストの実施と再テスト合格率95%(R2 69.9%)	3) 数学 ①提出率は91%で、目標を達成できた。 ②計画通り実施したが、再テスト合格率は73%であった。			
		4) 理科 ①実験・観察を入れた授業を年間3回以上実施する (R2 3回以上) ②小テストを1単位あたり2回以上実施する	4) 理科 ①年間3回以上実施できた。 ②小テストを1単位あたり2回以上実施できた。			
		5) 英語 ①家庭学習用課題の提出率90%以上(R2 83%) ②語彙力・文法等の小テスト平均正答率70%以上 (R2 69%)	5) 英語 ①提出率83% ②65%			
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
		[教科] ○基礎・基本の徹底と定着 ○学習指導法の改善	[教科]	[教科]		
		1) 国語 ・言語に関する知識・理解の深化 ・思考を深める力の育成 ・読む・書く力の向上	1) 国語 ①各単元・授業で思考を問う発問を課す ②評価のフィードバックを行う ③観点別評価を行う	1) 国語 ①授業のみならず、定期考査・一斉テストでも十分できた。 ②ルーブリック評価が定着し、一定程度できた。 ③ある程度できた。		
		2) 地歴・公民 ・基礎・基本の徹底 ・思考を深める力の育成	2) 地歴・公民 ①小テストや予習復習プリント(提出課題)を実施する ②共通テスト対策に取り組みせ、思考力を育成する	2) 地歴・公民 ①振り返りをさせる小テストや課題を定期的に行った。 ②毎週水曜日の放課後共通テスト対策補習を行った。		
		3) 数学 ・基本的な概念、原理・法則の体系的な理 解 ・数学的な表現を用いた事象の考察の徹 底	3) 数学 ①週末課題プリントの改良及び配布とフィードバック ②小テストの実施とフィードバック	3) 数学 ①計画通り実施できた。 ②小テストは既習事項が復習できる内容も取り入れ、フィード バックでは個に応じたプリント作成や再テストの実施方法を工 夫するなどして実施することができた。		
	4) 理科 ・論理的思考力、表現力の育成 ・基礎・基本の定着	4) 理科 ①実験・観察のレポートやワークシートに結果や考察を記入 させる ②小テストを実施する	4) 理科 ①レポート・ワークシートに結果・考察を記入する欄をつくり、 記入させることができた。 ②小テストを実施することにより、授業の内容を振り返る機会 をつくることができた。			
	5) 英語 ・基礎・基本事項の定着 ・学習意欲を高めるための授業内容の 精選	5) 英語 ①語彙・文法・読解等の課題を与え、定期的小テストを実 施し、事後指導まで行う ②積極的なITC教材の活用と興味を喚起する教材開発	5) 英語 ①学年ごとに計画を立て、課題や小テストが効果的になるよ うに工夫しながら実行した。 ②タブレットも活用しながら、教科書以外の教材も積極的に 取り入れ授業を活性化させた。			

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
生徒個々の進路希望を実現するための情報提供及びキャリア教育の推進	2 進路指導の充実 (1)進路への興味関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 (2)生徒の多様な能力、適性、進路希望に応じた、系統的・組織的な進路指導に取り組む。	<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 高大接続改革の情報共有や、生徒の学習・進路意識を喚起する集いを、各学年2回以上実施する。 共通テスト出願率65%以上を目指す。(R2 出願率65.8%) <p>[就職課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 公務員説明会を生徒の希望職種ごとに各1回以上開催すると共に、校外での説明会に積極的に参加させる。 2年生対象に本校主催のインターンシップを実施し、進路決定に関する意識の向上のため5名以上(R2はコロナ禍のため未実施)の参加者を目指す。 <p>[キャリア形成支援課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の生徒の満足度70%以上(R2 66.7%) 理数科学科の生徒の各活動に対する満足度83%以上(R2 83.1%) キャリア・パスポートの活用率75%以上(R2 70%) ポートフォリオの活用率75%以上(R2 70%) 	<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演会等の対象学年と実施回数 進路集会:1年1回、2年0回、3年5回 共通テスト集会:3年5回 小論文・志望理由書講演会:2・3年各1回 校内大学説明会:3年1回 なぜば成るセミナー:1・2年各1回 これらの取り組みは、生徒の進路意識の高揚に大きな効果があった。 共通テスト出願率 193/275(69.7%) <p>[就職課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の希望状況に合わせ、刑務官(1回)・自衛官(随時複数回)の説明会を実施した。また警察官・消防官・海上保安官については希望者各自でそれぞれの説明会に参加する方法をとった。 保育関係事業所でのインターンシップ実施を計画していたが、コロナ禍により自粛した。 <p>[キャリア形成支援課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の生徒の満足度70.9% 理数科学科の生徒の各活動に対する満足度93.7% キャリア・パスポート及びポートフォリオの活用率7.8% 	<p>[進学課] (評価A)</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会の形式を学年ごと分散実施やオンラインに変更して実施することにより、計画はほぼ実行でき、効果的に機能した。 共通テストの出願率が昨年度に続いて目標達成でき、出願率も上昇した。 <p>[就職課] (評価B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年集会での就職指導や公務員説明会を行うことで、早期からの意識付けをするきっかけとなり、自主的に公務員模試を受験する生徒が増えた。 生徒の希望する業種への企業訪問や連携を行い、必要な求人を確保することができた。 <p>[キャリア形成支援課] (評価B)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の評価から、総合的な探究の時間については普通科、理数科学科ともに充実した活動となっている。 キャリア・パスポートとポートフォリオの記録・整理はできているが、生徒の評価から、活用については1・2年生の段階ではその有用性を実感する機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識を積んで知恵に変えていくことが大事だ。幅広くいろいろな知識を身につけて創造する力をつけるためのP-timeやSP-timeの時間はそれにあたるので期待している。 STEAM教育のように教科横断的・融合的なものを探究活動の中に入れていくと興味・関心が広がり、進路につながるものが生まれる。 企業人としては課題解決能力を求めている。どう解決するかが大それたと考えている。中学生がスクールポリシーやスクールミッションを見て、将来を選択できればいいのではないかと。 具体性がないと進む方向がわからないので、インターンシップなど体験させることが重要となる。自由な発想で進む方向を研究してもらいたい。 	<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演会や集会等の進路関係行事を精選し、授業時数確保、探究活動を充実などに一定の成果をあげることができた。 1・2年生の進路指導をより充実させるため、ホームルーム活動の中に進路指導の時間を計画的に位置づける。 自らの学力や進路への不安、現役志向の高まりなどからより早く、より確実に進学先を決めようとする傾向が強くなっているが、来年度も共通テスト出願者割合増加への努力等を引き続き進め、最後まで合格に向け努力する意識を高めていく。 <p>[就職課]</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響や補習形態の変更に伴う就職指導の時間不足で困難が予測される状況ではあるが、できる限り早期に生徒の特性や希望状況把握し、必要な求人を確保する。 保護者に対してでもできる限り多くの情報を提供し、連携を図りながら希望職種・事業所等のミスマッチをなくす。 学年集会や進路保護者会を通して、就職に対する早期からの意識付けを図る。 <p>[キャリア形成支援課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間の改善について、今年度、時間割や年間計画等を見直し、検討を重ねた。その結果、来年度より負担感を軽減し、かつ充実した内容となるよう改革する。 新学習指導要領の実施に伴い理数科学科1年次の総合的な探究の時間は、来年度より代替の理数探究基礎となり、週時程外の実施がなくなる。これまでの内容をベースにして、来年度以降の計画を早急に策定する。 理数科学科で大変高い評価となったのは、1か月前に実施した県外研修の影響が大きいと考えられる。週時程外での総合的な探究の時間で実施していたが、来年度以降も継続して実施していきたいと考えている。 キャリア・パスポート及びポートフォリオについては、特に3年生でその有用性を認識できると考えられるが、今回は1・2年生に調査をしたため、低い値となった。来年度以降、生徒への丁寧な説明が必要である。
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
			<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路選択に関する生徒・保護者への情報提供を充実させる。 全教職員が一丸となった組織的かつ手厚い進路指導を継続する。 <p>[就職課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職活動の情報源として、各種説明会や職場見学に加えてインターネットの活用を図る。 生徒のキャリア教育推進のための校外体験活動を推進する。 <p>[キャリア形成支援課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来への展望を持たせることにより、目標設定や社会に参画する意識を高め、社会的・職業的な自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育成する。 	<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年やPTAと連携した進路保護者会等を学年毎に開催する。 進路だよりやClassi・学びポケットを活用し、生徒や保護者に進路指導や進学情報の発信を行う。 1・2年生の進路指導と3年生の受験指導に教職員全員で取り組む。 <p>[就職課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自衛官・刑務官・警察官等の説明会を実施する。また公務員模試を複数回実施する。 ハローワーク提供の高校向けインターネット求人情報を最大限に利用する。 生徒の希望する職種でインターンシップに協力してもらえらる事業所を開拓する。 <p>[キャリア形成支援課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)総合的な探究の時間 探究活動の過程でフィールドワークを行い、特に2年生のアクションでは小中学校での出前授業や企業と連携しての商品開発などの取り組みができた。 生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、年間2回発表会を開催する。 2)キャリア・パスポートを作成・配布し、学期に1回以上生徒に記入させる。 3)ポートフォリオを学期に1回以上生徒に記入させる。 	<p>[進学課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路保護者会 1年生:4月・10月実施(配信) 2年生:10月実施(配信) 3年生:6月実施(配信) Classi校内グループに生徒や保護者向け文書や集会スライド等を配信し、進路指導に関する情報を発信した。 進路だよりは内容を更新しながら年10回発行した。 学校HPに進路だよりや行事の様子を掲載した。 進路に関わる学校行事や学習指導に、全教職員で取り組むことができた。 <p>[就職課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 刑務官は7月に、自衛官は年間を通して複数回の説明会を希望生徒を対象に実施した。 1学期は3年生が校外公務員模試に参加、2学期は1・2年生対象に校内で公務員模試を3回実施した。 ハローワークの高校向けインターネット求人情報を活用し、県外就職希望者に情報提供することができた。 進学先決定のファクターとして、保育関係事業所を中心に協力依頼をする予定であったが、コロナ禍により自粛した。 <p>[キャリア形成支援課]</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)総合的な探究の時間 探究活動の過程でフィールドワークを行い、特に2年生のアクションでは小中学校での出前授業や企業と連携しての商品開発などの取り組みができた。 生徒が取り組んだ内容について、外部講師を招聘し、年間2回発表会を開催できた(今後実施予定も含む)。 2)キャリア・パスポートを作成・配布し、学期に1回以上生徒に記入させた。 3)ポートフォリオを学期に1回以上生徒に記入させた。 	

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	
規範意識の一層の向上とルールを守りモラルやマナーを大切にす心、いじめをゆるさない心の育成	3 生徒指導の充実 (1) 基本的な生活習慣の確立を図り、節度と品位のある礼儀正しい生活態度を育成する。 (2) 生徒の生活状況に応じた指導や支援を行うとともに、安全教育を徹底する。 (3) いじめの早期発見、解決に努める。	[生徒指導課] 1) モラルや社会的マナーの指導の強化について、生徒・保護者の肯定回答を82%以上とする。 (R2 生徒82% 保護者81%) 2) 年間総遅刻数を前年に比べ10%削減する。 (R2 全学年総数1321名) 3) 軽微なものも含め、登下校時の交通事故件数を前年に比べ10%削減する。 (R2 交通事故件数 36件) 4) いじめを許さない指導。いじめアンケートを年3回実施する。	[生徒指導課] 1) 身近な事案を取り入れながら、学校全体で指導に取り組み、意識の変革と向上に努めた。生徒・保護者の肯定回答は両者共に80%を上回ったが、生徒が2%保護者が1%昨年より下回った。 (生徒80%、保護者80%) 2) 1・2学期の遅刻総数は1322名であり、昨年より1.1倍増加した。(登校日数がコロナの影響で違うので日数換算した。) 3) 朝夕の交通指導やマナーアップでの呼びかけを行った。事故報告数は昨年より減少している。 (1月12日現在報告 24件 昨年同時期30件) 4) いじめ調査は7月・1月・3月(予定)に実施し、結果を全教職員で共有した。	[生徒指導課] (評価B) ・モラルや社会的マナーの指導を通じて、社会規範意識の向上に努めるという点ではA評価を得ているが、基本的な生活習慣の部分で遅刻に対する意識改善が図れず、目標を達成することができなかった。 ・交通事故については、余裕のない運転や安全確認が不十分であった等を理由とするものが多かった。 ・いじめ調査を、いじめに繋がる恐れのある言動等の早期把握と対応に繋げることができた。表面化していないだけの事案があるかもしれないので、小さな変化に注意して対応していく必要がある。	[生徒指導課] ・基本的な生活習慣の確立を図るために、遅刻防止に向けた活動を学校を挙げて行う。 ・自転車安全教育の徹底と強化を図り、自転車マナーの規範意識を向上させ、交通事故の防止に向けた指導を継続していく。 ・いじめに繋がる恐れのある言動を見逃さないように、生徒観察に努め、教員間の情報共有を密にしなが継続して行う。
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	特になし	
	[生徒指導課] 1) 道徳的・社会的マナーの指導と情報モラルの育成 ① 頭髮服装指導の強化 ② 情報機器の安全な使用方法と個人情報管理の徹底 2) 安全教育の徹底 3) いじめ調査アンケートの実施と活用	[生徒指導課] 1) 日常的に行うこととし、学校行事や学年集会では指導を徹底する。 ① 頭髮服装検査(年間3回必須、全体行事前) ② ネット被害の現状等講演会の実施 2) 立哨指導の継続と安全に対する意識の変容に努める。 ① 交通安全教室の開催(年1回全学年) ② 各学期ごとに一斉指導を実施 ③ クラス毎に年1回の交通安全ホームルーム活動を実施 ④ 学年集会での注意喚起 ⑤ 毎月20日マナーアップ活動の実施 3) 7月・12月・3月にいじめアンケートを実施し、現状把握すると共に担任面談等に活用する。	[生徒指導課] 1) 身近な事案に対しても、教職員の共通理解を図った上で、迅速に生徒指導を行った。学年毎の集会やリモートを通して注意喚起を行った。 ① 頭髮服装検査を各学期の始業式後に実施し、改善に努めた。(1・2・3学期) ② 1・2年生を対象に、2月に講演会を開催した。 2) 毎朝の立哨を継続して行い、安全登校とマナーの呼びかけを行った。 ① 安全教室は実施できなかった。 ② 生徒指導課員で実施した。 ③ クラス毎に交通安全に関するテーマを決めて、ホームルーム活動を実施した。 ④ 長期休業前の集会で、生活に関する注意喚起を行った。 ⑤ 各学年の生活委員の活動として、挨拶運動・駐輪場整備や、交通マナーの呼びかけを行った。 3) 7月・1月の調査では、問題となる事案は見られなかった。また、聞き取り調査においても問題はなかった。		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校運営協議会委員の意見
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	
豊かな心を育み、幅広く調和のとれた人材の育成と人権教育活動の充実	4 人権教育の推進 (1)教育活動全体を通して人権についての知識と豊かな人間性を育成し、互いに尊重する態度を育成する。 (2)人権尊重の精神の涵養に努め、人権意識の高揚を図る。	[人権教育課] 1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で肯定回答を76%以上にする。(R2 75%) 2)「人権教育関連学校行事」に対する生徒の評価で肯定回答を77%以上にする。(R2 76%) 3)各教科における人権学習・人権教育を計画的に実施する。(R2おおむね良好) 4)生徒対象の人権教育講演会を年1回以上実施し、満足度を76%以上とする。(R2 75%) 5)全体の人権教育職員研修会を年間1回実施する。(R2 8月に実施)	[人権教育課] 1)人権ホームルーム活動に対する生徒の評価で肯定回答が76%以上であった。(R3 76.7%) 2)「人権教育関連行事」に対する生徒の評価で肯定回答は71.4%だった。 3)各教科における人権学習・人権教育を計画的に実施した。(おおむね良好) 4)生徒対象の人権教育講演会を年1回以上実施し、満足度は71.4%だった。 5)全体の人権教育研修会を年間1回実施した。(R2 12月に実施)	[人権教育課] (評価B) ・人権教育ホームルームでは、1年生は「ハンセン病」「多様な性のあり方」「アイヌについて」、2年生では「部落の歴史」「災害と人権」「外国人の人権」、3年生では「就職差別につながる」とされる14項目「結婚差別」をテーマとし、生徒は積極的に取り組んだ。委員会も主体的に機能し、「共生社会」について研究した展示の準備など意欲を持って取り組むことができた。 ・各教科において現状に合わせたテーマで人権学習・人権教育に取り組んだ。今後さらに研修や準備を行い、充実させたい。	特になし
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	
	[人権教育課] 1)ホームルーム活動の充実 2)人権集会・人権週間に向けての取り組みの充実 3)各教科における人権学習・人権教育の推進 4)生徒対象の人権講演会の実施 5)人権教育職員研修の充実	[人権教育課] 1)アンケートを実施し、社会の状況や生徒の学びに合わせて資料を集めて採択し、展開を工夫する。 2)人権集会・人権月間に向け、人権委員や社会問題研究会の部員を中心とした生徒による人権問題をテーマとした展示物を作成し、啓発に努める。 3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権学習・人権教育を実施する。 4)人権教育に関する講演会を11月に実施する。 5)職員対象の人権教育研修会を7月に実施する。	[人権教育課] 1)生徒の学びや社会状況に合わせて資料を選択し、計画通り実施できた。 2)「共生社会」をテーマとした人権委員や社会問題研究会の展示に意欲的に取り組んだ。文化祭や人権週間、さらに当初の計画より1ヶ月展示期間を延ばし、人権意識の向上に努めた。 3)各教科において、年度当初に立てた計画に従って人権教育・人権学習を実施した。 4)新型コロナ感染拡大のため、人権集会は当初の予定通り年1回、11月に実施した。テーマは「部落問題とは何か～近代の歴史から考える」である。 5)職員対象の人権研修会を12月に実施した。		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
部活動のさらなる活性化を図るとともに、生徒会や各種委員会の諸活動を充実する。	(全校レベル)	<p>評価指標</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1) 学校行事や生徒会など各種活動の活性化を図る。 ① 生徒会や各種委員会の活動の活性化を図る。各会で特徴ある活動を展開し教職員・生徒の評価で肯定回答を70%以上とする。(R2 教職員75%、生徒59%) ② 学校行事(球技大会・学校祭・予備会など)を生徒主体で進め活性化を図る。教職員・生徒の評価で肯定回答を85%以上とする。(R2 教職員97%、生徒84%)</p> <p>5 特別活動の充実 (1) 生徒の主体的運営を基本として、各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実を図る。 (2) 部活動を充実・活性化させ、生徒の精神面、体力面での成長を図るとともに、団結力や協力を育成する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>[特別活動課]</p> <p>1) 学校行事や生徒会などの各種活動について ① 教職員指導のもとではあるが、生徒からの意見を取り入れながら、活動を行うことができた。昨年に比べると肯定回答が上がり、教職員・生徒で70%以上を超えた。しかし、生徒評価が少し低かった。 (R3 教職員82%、生徒66%) ② 生徒会役員を中心に主体的に学校行事を運営することができた。生徒会・ホームルームでの役割をしっかりと果たし、活性化を図ることができた。教職員・生徒の評価で肯定回答85%を超えた。 (教職員96%、生徒84%)</p> <p>2) 部活動入部率は全体で87%であり、各学年においても差がなく、3年間の継続活動ができていと思われる。部活動の教育貢献度の肯定回答は生徒・保護者で79.8%であった。 (R3 生徒80.5%、保護者79.2%)</p>	<p>総合評価・所見</p> <p>[特別活動課] (評価B) ・少しずつであるが、生徒たちが主体的に活動に取り組むことができてきた。生徒会・各種委員会では企画・運営など生徒主体で活動できた。 ・部活動を通して様々な成長を促し、学校教育の中での貢献度を高める必要がある。生徒においては積極的な活動が行われたが、保護者の中では部活動に対する理解が少し低いようである。学習と同様、部活動の充実を図る必要がある。</p>	<p>学校運営協議会委員の意見</p> <p>・民芸部がYouTubeで活動内容を発信しているのをフォローとして協力したい。より魅力的な部活動になるよう期待したい。</p>	<p>[特別活動課] ・生徒が主体的に各種活動に取り組むことができるよう、話し合える機会を多くつくるために各種委員会・生徒会活動の充実を図る。 ・ホームルームでの話し合える機会を増やし、より多くの生徒の意見を学校行事に生かし、学校生活を充実させる。 ・1年時の部活動入部率を上げて、3年間継続して活動できるよう魅力ある部活動運営に取り組む。学校教育において部活動の必要性を認識させ、学習と部活動の両立ができる環境を整える。</p>
	(下位組織レベル)		<p>活動計画の実施状況</p>			
		<p>[特別活動課]</p> <p>1) 部活動連絡協議会を開催し、部活動の活性化を図り、魅力ある活動を展開する。 2) 生徒会活動・各種委員会の活性化。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1) 部活動連絡協議会を年2回開催し、部活動の活性化を図る。 2) 年2回の各種委員会を生徒主体の会とし、具体的な活動内容を話し合い、各学校行事の活性化を図る。</p>	<p>[特別活動課]</p> <p>1) 部活動連絡協議会を開催できなかったが、各顧問を通しての指導により、活発な活動ができた。 2) 年2回の各種委員会を開催し、生徒主体で活動計画を立て、実践し活性化が図れた。</p>		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見	
環境問題の理解と身の回りの環境美化実践および防災意識の啓発	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	[環境防災課] 環境防災委員によるクラス及び全校集会での直接的な呼びかけを徹底し、生徒が協力的、主体的に行動できる力を身につけさせる。 啓発事項 環境委員 ①校内及び周辺の美化 ②新学校版環境ISOに関する活動の推進 防災委員 ①自然災害への対応 特別警報、風雪災害など ②東南海地震への対応 初期避難、防災避難訓練
		[環境防災課] 1) 清掃活動の取り組みについて肯定回答80%以上を目指す。(R2 79.3%) 2) ゴミの分別・資源保護の取り組みについて肯定回答80%以上を目指す。(R2 79.3%) 3) 年間に防災避難訓練を2回、机下避難訓練を2回実施する。防災クラブの活動を進める。	[環境防災課] 1) 教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。(肯定回答 79.5%) 2) 学校内外の清掃活動・ゴミの分別・資源保護に積極的に取り組めた。(肯定回答80.0%) 3) 防災避難訓練を5月と9月に実施した。その他、6月、11月に緊急地震速報行動訓練(机下避難訓練)を実施した。校内の掲示板や各教室に構内避難経路を掲示し、災害時の避難経路の周知を図った。	[環境防災課] (評価B) ・学校の環境美化や資源保護等の取り組みについて、生徒は協力的に取り組んだ。生徒会役員と環境委員が特に積極的に取り組み、節電・節水、ゴミの分別、文化祭・体育祭でのゴミ箱の設置や管理等を協力的にやり遂げて校内環境が整った。 ・消防庁、気象庁、徳島県などが主催した危機管理訓練に職員・生徒が参加した。定期的な訓練により基本事項の確認ができ、また火災を想定した避難訓練を実施することで、緊急事態に応じた避難経路の確認もできた。	
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況	
	[環境防災課] 1) 環境委員会を中心にさまざまな活動を通して環境問題についての意識啓発をする。 2) 生徒会と環境委員会を中心として啓発を推進する。 3) 防災委員会の活動を通して、知識や実践力を身につける。	[環境防災課] 1) 生徒・職員で毎日清掃作業を行う。 2) ゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動を推進する。 3) 防災研修会への参加や防災に関する学校行事を行う。防災クラブ活動を進め、防災意識の啓発も進める。	[環境防災課] 1) 毎日授業後、生徒・職員が校内の清掃を行い、また有志の生徒が毎朝校門前の清掃作業を行った。 2) 教職員、環境委員、生徒会を中心に校内美化や環境資源の保護に取り組めた。新学校版環境ISOに掲げるゴミ分別や節電、節水、紙のリサイクル活動ではよりよい効果が出せた。 3) 防災委員会を中心に災害避難訓練を実施した。文化祭では、防災に関するポスターを展示し、防災意識の啓発に努めた。		

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見		
運営組織の活性化と教職員研修の充実	7 学校の運営体制の充実 (1)教職員全体の共通理解のもと目標達成・課題解決のために組織的に取り組むとともに、危機管理体制の確立を図る。 (2)風通しの良い職場環境づくりを通じたコンプライアンスの推進及び学校における働き方改革の推進に努める。	[情報教育課] 1)情報セキュリティおよびGIGAスクール構想推進のための研修を、月2回程度実施する。	[情報教育課] 1)1月中旬までに教育Joruri掲示板にて22回のICT研修を兼ねた通知伝達を実施した。	[情報教育課] (評価A) 計画通り実施できた。 [コンプライアンス委員会] (評価B) コンプライアンス推進は外部講師の招聘を除いてはほぼ予定どおり実施できた。ただ、教職員の在在等時間の縮減の手立てが不十分であった。 [保健厚生課] (評価A) 計画通り実施できた。 [特別支援教育課] (評価B) 発達障害について支援のあり方等、特別支援教育について研修を実施できた。コンサルテーションにおいて臨床心理士と共通理解を深め、生徒を支援することができた。	・GIGAスクール構想について、オンラインのことなど、保護者は前のめりになっている。教師も使っている方をマスターしているが、生徒の家庭でWi-Fiの環境が整っているのは3分の1程度で十分に使用していない。タブレットの活用により、コンピュータリテラシーは今後さらに上がると思われる。避けては通れない。 ・教職員の負担増加について、キュレラスの導入で生徒に向き合う時間を増やすなど、好循環が生まれる。 ・外部のボランティアの力を得ることは難しいのか。遠隔でサポートしてもらうとか、支援していただけたら教師の負担軽減になる。何が負担になっているか把握し、PTA、ボランティア、人材バンクを作るのも一つの案として検討する。	[情報教育課] 1人1台タブレット端末の活用をさらに推進できるよう、小さなグループでの自発的な研修の実施に取り組む。 [コンプライアンス委員会] GIGAスクール構想推進にあわせ業務の効率化、精選・改善をより具体的に実施する。 [保健厚生課] 次年度も引き続き教職員対象の救急救命講習会や健康相談会を実施する。 [特別支援教育課] 支援を必要としている生徒に対し継続してスクールカウンセラーを活用しながら支援する。また、共通理解を図るために臨床心理士とのコンサルテーションを実施し、生徒個々に応じた丁寧な支援を行う。
		[コンプライアンス委員会] 1)職員会議など日常の機会をとらえての全教職員に対する啓発・研修を年間15回以上、外部講師による教職員研修を年1回以上実施する。 2)教職員間の報告・連絡・相談を円滑にするとともに、様々なリスクに対する危機管理意識を高める。 3)業務の精選・改善を推進し、教職員の在在等時間の縮減を図る。	[コンプライアンス委員会] 1)職員会議・職員朝会などで年間21回の研修を実施し、啓発を行った。外部講師を招聘する研修は中止した。 2)4月に危機管理体制を整え、周知を図った。また、年間を通して各分掌ごとの報告・連絡・相談体制の充実を努めた。 3)感染症対応等により新たに加わる業務がある一方、他の業務の精選・改善が不十分となった。			
		[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を2学期に実施する。 2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施する。	[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を2学期に実施した。 2)教職員対象の健康相談会を2学期に実施した。			
		[特別支援教育課] 1)特別支援教育研修を1回実施する。 2)学校生活において支援の必要な生徒について校内で共通理解を図る。	[特別支援教育課] 1)1学期に特別支援教育研修を実施した。発達障害等について理解を深めた。 2)教科担任会、特別支援教育委員会などを開催し、共通理解を図り、その後の指導に生かした。			
	(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況			
	[情報教育課] 1)教職員研修の充実 2)GIGAスクール構想の推進	[情報教育課] 1)クラウドを用いて各教員が実施できる研修を月2回程度設定し、各自で取り組んでもらう。 2)Classiなどの使用法活用を定期的に紹介し、学年単位・クラス単位の情報発信を活性化させる。	[情報教育課] 1)タブレット端末を活用しようとする教員を中心に個別に教えあう形で自発的研修を実施した。 2)保護者・生徒向けにClassiの活用を督促し、クラス単位や講座単位のグループを必要に応じて作成して課題配布や緊急連絡用に活用できた。			
	[コンプライアンス委員会] 1)教職員研修の充実 2)円滑なコミュニケーションの促進と風通しの良い職場環境づくり 3)ワークライフバランスの推進とメンタルヘルスの保持増進	[コンプライアンス委員会] 1)年間2回以上の推進期間及び随時適切な機会を設けて、バランスのとれた啓発・研修を行う。 2)危機管理に関する具体的な事例に基づく研修を実施する。 3)業務の棚卸しやICT活用による効率化等を行い、教職員の業務負担を軽減する。	[コンプライアンス委員会] 1)夏と冬のコンプライアンス推進週間及び月2回をめぐりに随時の啓発・研修を行った。 2)機に応じて具体的な事例をもとに啓発を行い、組織の危機管理意識・コンプライアンス意識の徹底を図った。 3)ICT設備・機器が整備されたが、それに伴う業務や負担の増加に対する手立てが不足した。			
	[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習の充実 2)教職員対象の健康相談会の実施	[保健厚生課] 1)教職員対象の救急救命講習会を2学期(10/14(木)予定)に実施する。 2)教職員対象の健康相談会を2学期(12/10(金)予定)に実施する。	[保健厚生課] 1)徳島市消防局より講師を招き、教職員対象の救急救命講習会を10月に実施した。 2)教職員対象の健康相談会を12月に実施した。			
	[特別支援教育課] 1)特別支援を必要とする生徒や学校生活が困難な生徒へのケアを図る。	[特別支援教育課] 1)教職員対象の特別支援教育について理解を深める研修会を実施する。 2)特別支援の対象となる生徒について校内で理解を深めるケース会議を開催する。 3)必要のある生徒には、スクールカウンセリングの制度を積極的に活用し、支援していく。	[特別支援教育課] 1)1学期に特別支援教育について研修会を実施した。 2)共通理解を図るため適宜ケース会議を開催し、支援のあり方を話し合った。 3)スクールカウンセリングを希望する生徒が有効に活用し、コンサルテーションにおいて支援の方法を話し合った。			

自己評価				学校運営協議会評価	次年度への課題と今後の改善策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校運営協議会委員の意見		
学校外との交流・連携やHPによる広報活動のさらなる活性化とボランティア活動を支援する校内組織づくりの推進	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価・所見	<p>・ボランティア活動について、保護者の役割として、保護者自身がボランティア精神をみせるのはどうか。生徒を引率する場合、保護者にも協力してもらおうと思う。</p> <p>[情報教育課] 必要な情報を適切な範囲の人に確実に伝えられるように、メディアの選択をさらに進め定着させる。</p> <p>[国際交流課] 今後も県内における国際交流の研修会などの案内に努め、交流活動に積極的に参加する生徒の数を増やす。また、ドイツとの姉妹校交流については、オンライン形式での交流に切り替え、内容をさらに充実させる。</p> <p>[特別活動課] 新型コロナウイルス感染症による影響により、ボランティア活動の実施がどれだけ行われるかわからないが、案内があれば積極的な参加を呼びかけていく。</p> <p>[総務課] 今後も新型コロナウイルス感染症による影響が続くことが予想されるため、PTA活動の行事の内容や実施方法について新たな方法を引き続き模索し検討する。</p>	
		[学校評価委員会] 1) 保護者学校評価アンケートの回収率83%以上をめざす。(R2 82.9%)	[学校評価委員会] 1) 保護者学校評価アンケートの回収率は81.2%で目標は達成できなかった。	[学校評価委員会] (評価B) 学校評価アンケートの保護者回収率は期間を延長したものの目標達成に至らなかった。		
		[情報教育課] 1) ホームページ更新を250回以上実施する。Classiなどを用いた学年・クラス単位の情報発信を月1回以上行う。	[情報教育課] 1) 公式ホームページは、コロナ禍で学校行事の少ない中、1月中旬までに219回更新した。Classiは生徒グループ285、保護者グループ31が作成され双方向の情報交換に活用されている。	[情報教育課] (評価B) 情報の内容によるメディアの選択が進んだ。ホームページでは校外を対象に広報活動を行い、Classiでは少人数のグループを作成することで生徒や保護者との情報交換がこまめに行えるようになった。		
		[国際交流課] 1) ドイツ姉妹校とのオンライン交流を定期的に行う。 2) 県内における国際交流の活動を周知し、積極的な参加を呼びかける。 3) 本校ALT(外国語指導助手)との交流を通して、県内におけるスピーチコンテストへの積極的な参加を呼びかける。	[国際交流課] 1) ドイツ姉妹校に手紙や動画を年間3回送った。 2) 感染症拡大予防のため積極的な呼びかけは控えたものの、四国大学主催の英語セミナーに2名の生徒が参加した。 3) 今年度の参加はなかった。	[国際交流課] (評価B) 感染症拡大防止のため、活動の場は減ったものの、県内で行われた国際交流や活動の場に参加する生徒がいた。		
		[特別活動課] 1) ボランティア活動の積極的な参加を呼びかける。	[特別活動課] 1) 案内があったボランティア活動に関しては参加を呼びかけたが、実施された活動は少なかった。	[特別活動課] (評価B) ボランティア活動が殆ど実施されなかったが、唯一行われた活動には積極的に参加できた。		
		[総務課] 1) 各種PTA活動を活性化させ、保護者の積極的なPTA総会参加を呼びかける。 2) 業務を円滑に遂行する。	[総務課] 1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年度も多くのPTA活動が中止となり、PTA総会は書面総会の形で実施した。 2) 実施できた行事については円滑に業務を遂行した。	[特別活動課] (評価B) ボランティア活動が殆ど実施されなかったが、唯一行われた活動には積極的に参加できた。		
		(下位組織レベル)	活動計画	活動計画の実施状況		
		[学校評価委員会] 1) 学校評価を充実させ、次年度の更なる改善に役立てる。	[学校評価委員会] 1) 職員・生徒・保護者アンケート及び学校関係者評価委員会を実施する。	[学校評価委員会] 1) 職員・生徒・保護者アンケートを11月に実施した。学校運営協議会(コミュニティスクール)を2回実施した。3回めは3月中旬を予定している。		[総務課] (評価B) 校内外を問わずほとんどのPTA活動が中止になったが、動画配信にしたり、人数を制限するなど工夫して実施できた行事もあった。
		[情報教育課] 1) ホームページなどによる情報発信を活性化させる。	[情報教育課] 1) ホームページ更新とともに、Classiなどを用いた学年・クラス単位の情報発信を促し、学年主任や担任の支援を行う。	[情報教育課] 1) クラス担任や授業担任が必要に応じてClassiのグループを作成して、生徒や保護者と情報交換ができるようになった。		
		[国際交流課] 1) ドイツ姉妹校交流の推進 2) 徳島県内におけるスピーチコンテストへの参加の促進	[国際交流課] 1) 全校生徒にドイツ姉妹校交流を紹介し、積極的に参加するよう呼びかける。 2) 県内におけるスピーチコンテストについて、全校生徒、教職員に周知し、積極的な参加を呼びかける。	[国際交流課] 1) 本校ESS同好会のメンバー、1年生5名、2年生2名がドイツ姉妹校交流活動に参加した。 2) 県内におけるスピーチコンテストについて、全校生徒、教職員に周知したものの今年度の参加者はなかった。		
	[特別活動課] 1) ボランティア活動の活性化。	[特別活動課] 1) ボランティア活動の案内の周知を徹底し、積極的な参加を呼びかける。	[特別活動課] 1) 案内・実施されたボランティア活動は少なかったが、唯一行われた活動には積極的に参加することができた。			
	[総務課] 1) PTA活動の円滑な運営と充実 2) 学校行事・式典時における外部との連絡調整	[総務課] 1) PTA活動における各種連絡調整や研修などの企画提案を行う。 2) 城北祭での保護者への積極的な参加を呼びかけや卒業式での外部との連絡を密に行う。 3) 創立80周年記念式典を円滑に執り行う。	[総務課] 1) 4月に理事会、5月に書面総会、11月にいきいきセミナー、12月に3学年部会を開催した。 2) 城北祭は非公開としたため、保護者の参加はなかった。 3) 創立80周年記念式典は来年度に延期となったが、記念事業は計画通り進めることができた。			